

## 第2章 狛江市及び対象地域の現況

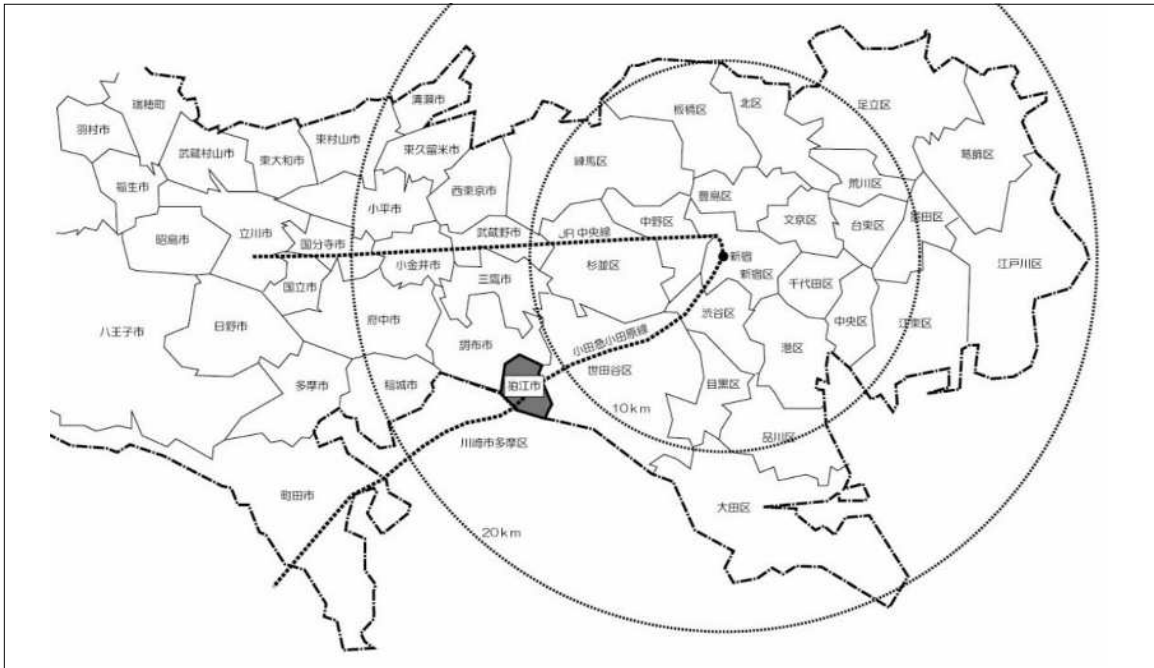
### 2-1 狛江市の現況

#### (1)自然・歴史的状況

##### ①位置・地勢

本市は、多摩丘陵の南東端多摩川沿いに位置し、市域面積 6.39 km<sup>2</sup>の「全国で2番目に小さい市」です。

新宿から電車で約 20 分の交通至便な位置にあること、また市全体が比較的平坦な地形であるため、徒歩や自転車での移動がしやすいこと、さらには多摩川や野川、農地、樹林地など、自然環境にも恵まれていることなどから、狛江に住宅地を求める人々も多く、住宅都市として発展しています。



狛江市の位置



和泉多摩川駅



多摩川

## ②歴史・沿革

市の南を流れる多摩川の川底からハマグリ（ハマグリ）の群れが化石となって発見されたことから、昔は市一円に潮が差し込んだ多摩川の河口であったことが分かっています。また、今もこの丘陵台地のいたるところから縄文式の土器や石器類が発掘されたり、古墳時代に栄えていたことを物語る古墳が邸内や畑の中に多数残っていたりすることから、多摩川沿岸に人々が暮らしていたことが推測されています。

現在見られる市域は、江戸時代の和泉村、猪方村、岩戸村、覚東村、小足立村、駒井村の六か村にほぼ該当し、田畑の多い農村で構成されていました。慶長 14(1609)年に開削された灌漑用水路である六郷用水、昔の野川、弁財天池から流れる清水川などがこの地域の重要な水源でした。

明治 4(1871)年の廃藩置県、明治 11(1878)年の郡区町村編成などを経て、明治 22(1889)年の町村制施行により六か村が合併して狛江市の前身である狛江村が誕生しました。その後の明治 26(1893)年には、村全体がそれまでの神奈川県から東京府に移管されています。

狛江村は明治期以降も田畑の多い農村で、米や麦の他に果樹・野菜の栽培、養蚕が営まれるとともに、多摩川での漁業が副業として営まれていました。昭和 2(1927)年に小田急線が開通することで都心とのアクセスが良くなり、人口が増加するものの、まだ郊外住宅都市としての発展までには至りませんでした。太平洋戦争後の昭和 27(1952)年に狛江村が狛江町となり、昭和 45(1970)年の市制施行により狛江市となる高度経済成長期の中で、さらなる人口増加により、本市は多摩川を中心とする自然豊かな住宅都市として成長し、現在に至っています。



## (2)社会的状況

### ①人口・世帯数

本市の人口は 82,723 人、世帯数は 43,313 世帯(令和 5 (2023)年度)です。

過去 5 年間の推移をみると、人口は令和 2 (2020)年度をピークに微減し、世帯数は微増傾向を示しています。

人口、世帯数

(人口：人、世帯数：世帯)

項目			内容 (各年度 4 月 1 日現在)				
			平成 31 年度 (2019)	令和 2 年度 (2020)	令和 3 年度 (2021)	令和 4 年度 (2022)	令和 5 年度 (2023)
人口	男	日本人	39,509	39,778	39,618	39,458	39,177
		外国人	655	699	658	658	716
		小計	40,164	40,477	40,276	40,116	39,893
	女	日本人	42,072	42,316	42,279	42,245	42,134
		外国人	664	710	663	652	696
		小計	42,736	43,026	42,942	42,897	42,830
合計			82,900	83,503	83,218	83,013	82,723
世帯数	日本人	41,790	42,200	42,441	42,558	42,568	
	外国人	707	775	711	677	745	
	合計	42,497	42,975	43,152	43,235	43,313	

出典：住民基本台帳 (各年度 4 月 1 日現在)

### ②土地利用

本市の面積は 6.39 km<sup>2</sup>です。

その内訳を地目別土地面積で見ると、住宅地区(346.98ha)が約 54%を占める一方で、畑(34.39ha)は約 5%です。近年は、宅地面積が増加し、畑面積が減少する傾向を示し、一層の「住宅都市」化が進んでいることが分かります。

地目別土地面積

(ha)

項目	総数	田	畑	宅地			池沼	山林	原野	雑種地	免税点 以下
				商業地区	工業地区	住宅地区					
平成 30 年 (2018)	397.60	-	37.65	16.18	10.85	314.84	-	0.78	-	16.90	0.40
平成 31 年 (2019)	398.67	-	37.40	16.95	10.85	315.92	-	0.73	-	16.32	0.50
令和 2 年 (2020)	398.51	-	36.34	16.73	10.85	317.40	-	0.77	-	15.93	0.49
令和 3 年 (2021)	398.47	-	35.31	17.59	0.00	328.43	-	0.77	-	15.79	0.58
令和 4 年 (2022)	398.58	-	34.39	17.54	0.00	329.44	-	0.77	-	15.60	0.84

出典：統計こまえ(令和 4 年度版) (各年 1 月 1 日現在)

※この表は、固定資産税の対象となる評価面積である。

雑種地とは、高圧鉄塔敷地、鉄軌道用地、駐車場などである。

免税点以下とは、土地に対して課する固定資産税の課税標準となるべき額が 30 万円に満たないものである。

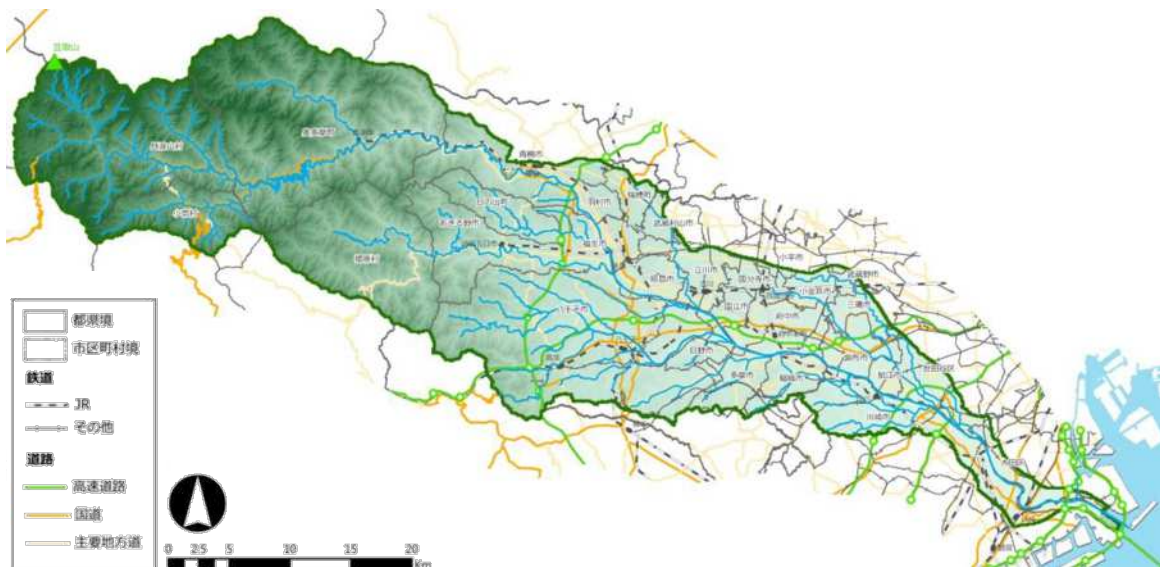
## 2-2 多摩川の現況

### (1) 多摩川の概要

多摩川は、山梨県、東京都、神奈川県の1都2県を流れる多摩川水系の本流で、幹川流路延長138km、流域面積1,240km<sup>2</sup>、31市町村にまたがる一級河川です。

多摩川は全国一級河川(109水系)の中で、流路延長は23番目に長く、流域面積は54番目に広い河川であり、流域面積に対して比較的細長い河川であると言えます。

源流は、関東山地南部に位置する雲取山(2,017m)、笠取山(1,953m)、大菩薩嶺(2,057m)などの2,000m級の高山に囲まれた地域に端を発し、最後は大田区と川崎市川崎区との境を流れて東京湾へと注いでいます。また、中流部より下流は市街化の割合が高く、流域人口や流域人口密度は全国トップクラスであり(流域人口:全国4位、流域人口密度:全国3位(1997河川現地調査))、典型的な都市河川です。



多摩川流域  
出典：国道交通省HP



多摩川五本松周辺



小田急線高架下周辺

## (2)台風による多摩川の決壊

昭和 49(1974)年 9 月 1 日、中心気圧 960mb、中心付近の最大瞬間風速 40m の大型台風 16 号が本市を襲いました。多摩川上流で降り続いた記録的な豪雨は、多摩川の水位を瞬く間に上げ、天端まで達した水位は猪方地先の多摩川本堤防を長さ 5 m にわたり決壊させました。9 月 2 日の未明から 3 日にかけて続いた堤防を洗う濁流は、十数軒の民家を倒壊、流失させた大水害として、本市に長く暮らす人々の記憶に残る出来事となりました。



台風 16 号(昭和 49(1974)年)による被害



台風 16 号(昭和 49(1974)年)による被害



台風 16 号(昭和 49(1974)年)による被害

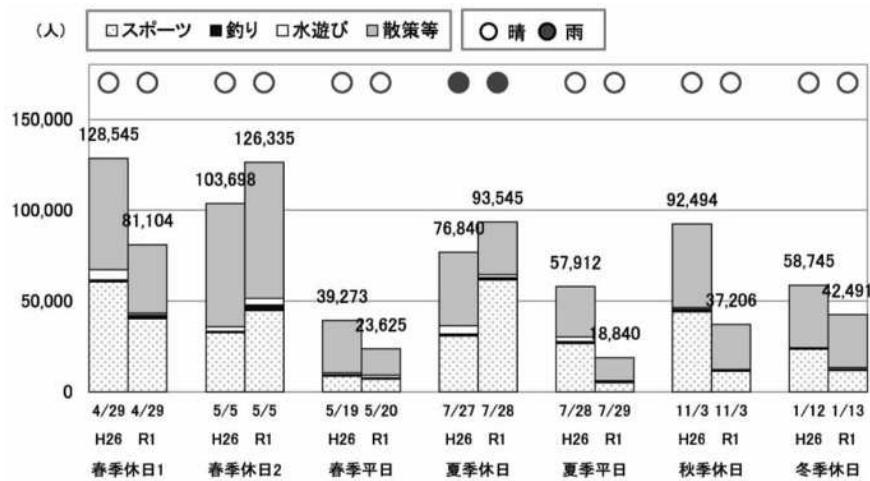


多摩川決壊の碑

### (3)多摩川の河川空間の利用状況

国の「令和元年度 河川水辺の国勢調査結果〔河川版〕（河川空間利用実態調査編）（令和3年2月、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課）」を基に、多摩川（狛江市内をはじめとする多摩川の全ての河川空間）の河川利用について、その形態をみると、「散策等」が51%と最も多く、次いで「スポーツ」が45%であり、これらの2つで全体の96%を占めています。

また、場所をみると、「高水敷」が67%と最も多く、次いで「堤防」が29%、「水際」が3%、「水面」が1%となっています。



各調査日の利用者数

出典：「令和元年度 河川水辺の国勢調査結果〔河川版〕（河川空間利用実態調査編）（令和3年2月、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課）」

区分	項目	年間推計(千人)		利用状況の割合	
		平成26年度	令和元年度	平成26年度	令和元年度
利用形態別	スポーツ	7,223	5,298		
	釣り	248	241		
	水遊び	480	276		
	散策等	9,854	5,930		
合計	17,806	11,745			
利用場所別	水面	143	102		
	水際	585	415		
	高水敷	11,566	7,846		
	堤防	5,512	3,382		
合計	17,806	11,745			

※表示桁数の関係で文章や表中の計算値が一致しない場合があります。

多摩川の年間河川空間利用状況

出典：「令和元年度 河川水辺の国勢調査結果〔河川版〕（河川空間利用実態調査編）（令和3年2月、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課）」

## 2-3 対象地域の現況

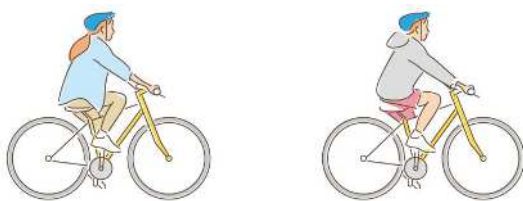
### (1)対象地域への交通アクセス

多摩川へのアクセスのうち、主に市外からは、和泉多摩川駅が利用されています。和泉多摩川駅は、各駅停車の駅ですが、新宿駅から約 20 分、町田駅から約 20 分と利便性が良く、また駅から多摩川堤防までは 200m程の距離であることから、イベント時などは大勢の人たちで賑わっています。

一方、多摩川の近くで暮らす市民は徒歩や自転車での来訪が多く、それぞれの河川利用の目的によってアクセスが異なっています。多摩川緑地公園で行われるイベント時などは、鉄道高架に沿ったアクセスが見られますが、散歩やジョギングなどの日常は、それぞれの地域で多摩川堤防に直接つながる道路と堤防を上る階段などを使った利用が見られます。

なお、現在、多摩川河川敷の利用者を対象とした専用駐車場は無く、自動車利用者は、付近に点在するコインパーキングを利用しています。

本市では令和 5 (2023) 年度に、地域交通の利便性向上や地域観光における導入可能性を検証するため、グリーンスローモビリティ<sup>1</sup>の実証運行を行いました。



<sup>1</sup> グリーンスローモビリティとは、時速 20km 未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称です。

## (2)主な地域資源



多摩川五本松



松林児童遊園と堤防道路



多摩川ワンド



和泉多摩川地区センター



ほかほか広場



多摩川緑地公園グラウンド



多摩川自由ひろば



狛江水辺の楽校





### (3)対象地域とその周辺の利活用状況

#### ①近年の主な整備

近年、本市が多摩川とその周辺で実施した整備は、以下のとおりです。

近年、本市が多摩川とその周辺で実施した整備

関連施策名	時期	概要
多摩川河川敷復旧事業	令和3年度 (2021)	令和元年東日本台風により多摩川緑地公園グラウンドは、バックネットが破損・移動、水道が破損、ポールが倒壊・移動した。また、グラウンド内に造成していた土が流出し、全域に上流から流れてきた石が堆積した。ボート乗り場などのある区域においても同様に石が堆積し、原形をとどめない状況になった。また、多摩川五本松付近や包括占用区域内、狛江水辺の楽校に流されてきた大量のごみの滞留、川岸が崩落するなどの被害を受けた。これら原状復旧を行った。※1
ぽかぽか広場整備	令和4年度 (2022)	多摩川沿いの広場と緑道の整備。基本コンセプトを多摩川と和泉多摩川駅に近いという地域特性を活かし、ぽかぽか広場ならではの魅力の創出と周辺地域の活性化を実現させることを目的に、以下の整備を行った。 ● イベントにも利用できる和泉多摩川駅周辺の活性化に資する広場 ● 自然を活かし、多摩川河川敷までのテーマを持った緑道

※1：「令和元年台風第15号及び第19号による災害復旧計画（狛江市、令和2年1月）」より



多摩川緑地公園グラウンド(被災時)



多摩川緑地公園グラウンド(復旧後)



ぽかぽか広場



ぽかぽか広場

## ②市民や民間事業者などによる河川利用状況

市民や民間事業者などによる多摩川河川敷の使用申請件数は、令和元(2019)年12月に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大により一時的に減少しましたが、令和3(2021)年度と令和4(2022)年度は、コロナ前(平成30(2018)年度)の水準まで戻ってきています。また、多摩川緑地公園グラウンドでも同様な結果を示しています。

また近年では、市内の公園、市役所、民間施設など様々な場所で、映画やドラマなどが年間100件近く撮影されており、中でも多摩川での撮影が多くなっています。

このほか、多摩川の流水に着目した民間事業者が、太陽光発電よりも設備利用率の高い小水力発電の設置を検討した経緯があります。

### 市民や民間事業者などによる河川利用状況

主な場所	施設利用者数（多摩川緑地公園グラウンドは、上段：件、下段：人）				
	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)
多摩川河川敷使用申請件数	107	78	49	103	94
多摩川緑地公園グラウンド	1,482	732	-	1,682	1,835
	44,052	63,022	-	45,281	40,337

出典：統計こまえ(令和4年度版)、環境政策課

※多摩川緑地公園グラウンドは、令和元年東日本台風の影響などにより、令和元年10月12日から令和3年3月31日まで利用休止。



多摩川緑地公園グラウンド



多摩川河川敷でのドラマなどの撮影の様子

## ③災害時における多摩川の活用

多摩川左岸一帯は、「狛江市地域防災計画」において、震災時に近隣の避難者が一時的に集合して様子を見る「災害時集合場所」として指定されています。また、多摩川緑地公園グラウンドは「東京都地域防災計画」において、「災害時臨時離着陸場候補地」「大規模救出救助活動拠点候補地」として指定されています。そのほか、多摩川の水は消防水利や生活用水としての活用ができます。

#### ④河川と市民との関わり

河川と市民との関わりを、定期的なイベントなどの開催に着目してみると、「こまえ初春まつり」をはじめ、「こまえ桜まつり」「狛江古代カップ多摩川いかだレース」「狛江・多摩川花火大会」などがあり、大勢の市民などで賑わっています。

このように、本市では、主に多摩川を憩いの場所としてだけでなく、多摩川を中心とした地域も含めた場を、賑わいや活気を生み出す場所として活用されています。

##### 多摩川と市民との主な関わり

主なイベントなど	開催時期	概要
こまえ初春まつり	1月中旬	狛江の正月を代表する「狛江市消防団出初式」「どんど焼き」などのイベントが多摩川河川敷で行われます。出初式では、木遣り、纏の演技が披露されると拍手が沸き起り、大迫力の一斉放水で会場は盛り上がります。
狛江多摩川ロードレース	1月中旬	多摩川左岸の天端を主走路として、約700人が参加するロードレース。ランナーには応援の聲がかかり、多くの人の注目を集めています。
こまえ桜まつり	3月中下旬	市内の桜のあるエリアで開催される春の人気イベントです。桜を鑑賞しながら様々な催しや飲食を楽しむことができます。同時期に開催される多摩川沿いの桜のライトアップも開催されています。
狛江古代カップ多摩川いかだレース	7月中下旬	手作りいかだで、スピード、デザイン、アイデアを競う祭りです。平成2(1990)年に狛江市市制施行20周年記念行事として初めて開催されてから、狛江市内だけでなく市外からの参加チームも増え、いかだレースとしては最大規模を誇る大会に成長しています。
狛江・多摩川花火大会	8月上旬 (不定期開催)	5,000発もの花火が夜空を彩り、フィナーレには音楽と花火がコラボレーションしたハナビリュージョンが行われ、川崎市側と狛江市側の両方に設けられた観客席では多摩川を挟んで盛り上がります。
TAMARIBA	11月上旬	水辺の絶好な空間で、音楽、クラフト、フード、アクティビティなど様々なコンテンツが展開され、子どもから大人までみんな楽しめるフェスティバルです。



こまえ初春まつり



狛江・多摩川花火大会

## 2-4 かわまちづくりに対する市民などの意見

### (1)調査の概要

多摩川の魅力や整備・活用などに関する意見を把握するため、市民、多摩川利用者、各種団体などに対して、アンケート調査、ヒアリング調査を実施しました。

#### ①アンケート調査

アンケート調査の概要

アンケート種類	対象者	実施日	方法と回収率など
市民 アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 18歳以上の市民</li> <li>● 1,500人</li> <li>● 住民基本台帳より無作為抽出</li> </ul>	令和4(2022)年 10月11日～11月10日 (30日間)	配布：郵送 回収：郵送+WEB(LOGOフォーム) 回収率：41.53%(623通)
多摩川利用者 アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多摩川利用者</li> <li>● 回答者：225人</li> </ul>	令和4(2022)年 10月16日～11月5日のうち、 土日4回・平日1回	配布：手渡し 回収：WEB(LOGOフォーム)
小中学生 アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市内小学校 4年生：612人</li> <li>● 市内中学校 2年生：480人</li> </ul>	令和4(2022)年 10月17日～11月14日 (29日間)	配布：電子配布 回収：WEB(LOGOフォーム) 回収率：小学生81.21%(497通) 中学生67.29%(323通)
高校生 アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 都立狛江高等学校</li> <li>● 回答者：46人</li> </ul>	令和5(2023)年 1月16日～1月26日 (11日間)	配布：手渡し 回収：WEB(LOGOフォーム)

#### ②ヒアリング調査

ヒアリング調査の概要

種類	実施団体	実施日	方法など
関係団体 ヒアリング調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 町会・自治会(4団体)</li> <li>● 事業者(10団体)</li> <li>● 活動団体(8団体)</li> <li>● 教育関係(2団体)</li> </ul>	令和4(2022)年11月21日～ 令和5(2023)年2月7日	対面ヒアリング

## (2)調査結果(市民アンケート調査結果の概要)

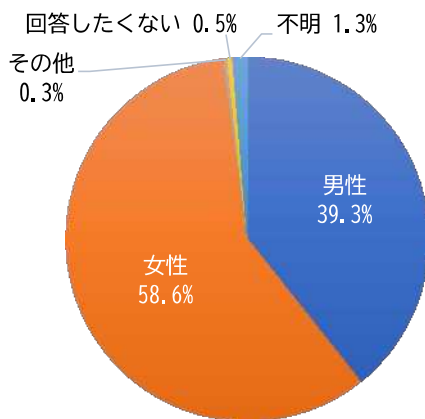
「市民アンケート調査」結果の概要を以下に示します。

### ①回答者の属性

- 回答者の性別は、「男性」39.3%に対し、「女性」58.6%で、女性が多い。
- 年齢は、「10歳代」「20歳代」「80歳代」は少ないが、「30歳代」～「70歳代」は14.4%～18.6%で同程度の割合である。
- 職業は、「会社員・公務員(団体職員含む)」が41.4%で最も多く、次いで「無職」が18.0%である。
- 居住地は、「和泉本町」「中和泉」が比較的多い。

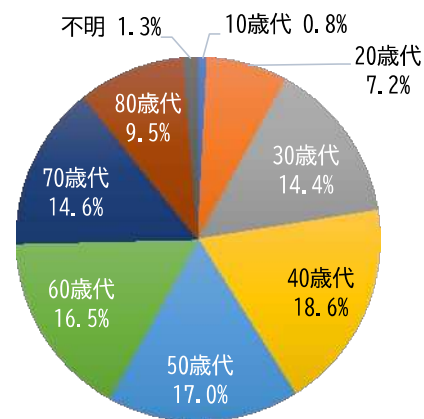
性別(SA)

n=623



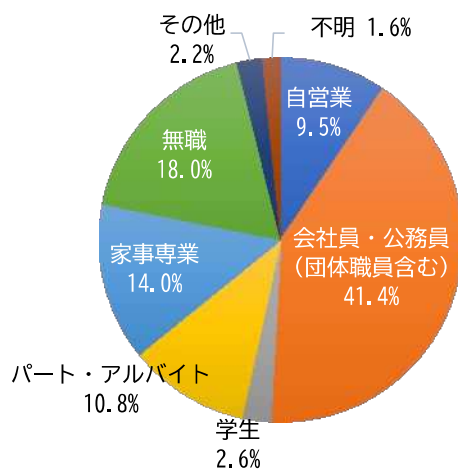
年齢(SA)

n=623



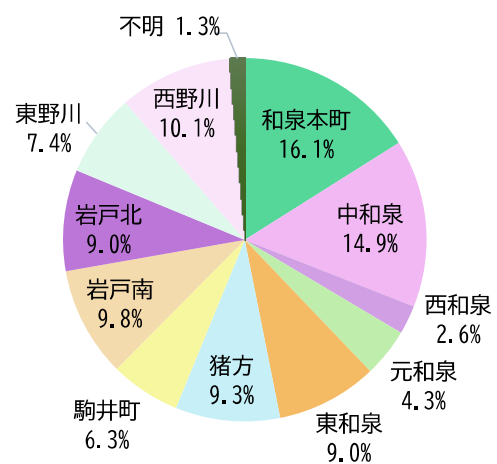
職業(SA)

n=623



居住地(SA)

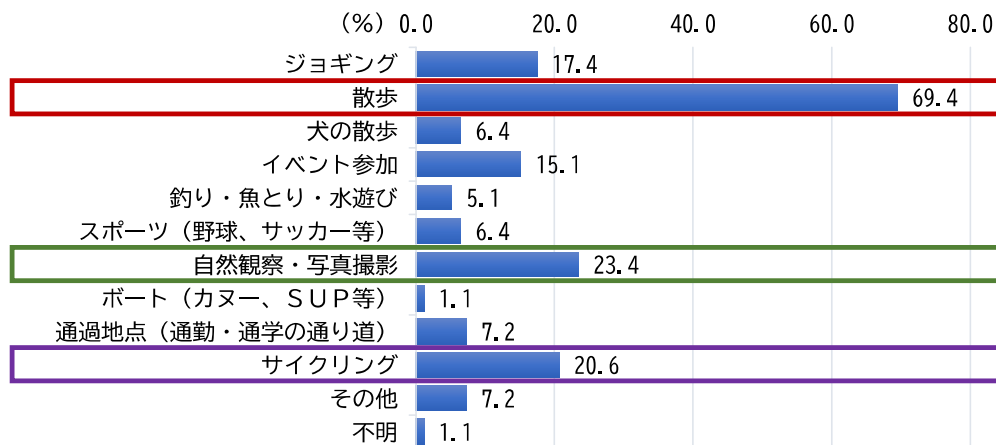
n=623



## ②多摩川の利用について

- 『利用目的』は、「散歩」が最も高く、次いで「自然観察・写真撮影」「サイクリング」である。
- 「散歩」は、全年代でも最も高く、特に「60～80 歳代」は高い結果となっている。
- 『利用頻度』は、「多摩川に隣接または近い地域」では「週1～2回程度」以上が4割以上である。
- 『利用場所』は、「多摩川五本松～都立狛江高校前区間」が最も高く、次いで「小田急小田原線上流区間」「多摩川緑地グランド周辺区間」「調布市境～水神前区間」と続いている。
- 「多摩川五本松～都立狛江高校前区間」は、「50～80 歳代」の割合が高い結果となっている。一方、「10 歳代」や「20 歳代」は、「小田急小田原線上流区間」が最も高い割合を示している。
- 『利用目的』と『利用場所』の関係を見ると、「多摩川五本松～都立狛江高校前区間」と「小田急小田原線上流区間」の区間で「散歩」が多くみられ、その他、「サイクリング」「自然観察・写真撮影」「ジョギング」も他区間に比べて多くみられる。
- 特に「散歩」について、利用される区間をパターン化して整理した利用者数をみると、区間2のみ（パターン 2）の利用のほか、区間1・2（パターン 8）、区間1・2・3（パターン 9）、さらに区間2・3（パターン 14）が多く、主に区間2を中心に利用されていることがわかる。

## 利用目的



## 利用目的 × 年齢

問17. 年齢	合計	問4. 利用目的										
		ジョギング	散歩	犬の散歩	イベント参加	釣り・魚とり・水遊び	スポーツ (野球、サッカー等)	自然観察・写真撮影	ボート (カヌー、SUP等)	通過地点 (通勤・通学の通り道)	サイクリング	その他
10歳代	5	2	3	0	0	0	1	2	0	1	0	0
	100.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0
20歳代	33	7	25	3	1	0	0	4	0	6	4	4
	100.0	21.2	75.8	9.1	3.0	0.0	0.0	12.1	0.0	18.2	12.1	12.1
30歳代	74	15	47	4	13	6	8	16	2	7	12	7
	100.0	20.3	63.5	5.4	17.6	8.1	10.8	21.6	2.7	9.5	16.2	9.5
40歳代	89	22	57	6	28	11	11	20	3	7	24	8
	100.0	24.7	64.0	6.7	31.5	12.4	12.4	22.5	3.4	7.9	27.0	9.0
50歳代	86	21	60	7	18	5	3	17	0	6	27	4
	100.0	24.4	69.8	8.1	20.9	5.8	3.5	19.8	0.0	7.0	31.4	4.7
60歳代	72	6	55	6	5	0	2	17	0	5	13	4
	100.0	8.3	76.4	8.3	6.9	0.0	2.8	23.6	0.0	6.9	18.1	5.6
70歳代	68	3	52	2	4	2	3	20	0	2	11	3
	100.0	4.4	76.5	2.9	5.9	2.9	4.4	29.4	0.0	2.9	16.2	4.4
80歳代	32	4	25	1	2	0	1	12	0	0	4	3
	100.0	12.5	78.1	3.1	6.3	0.0	3.1	37.5	0.0	0.0	12.5	9.4

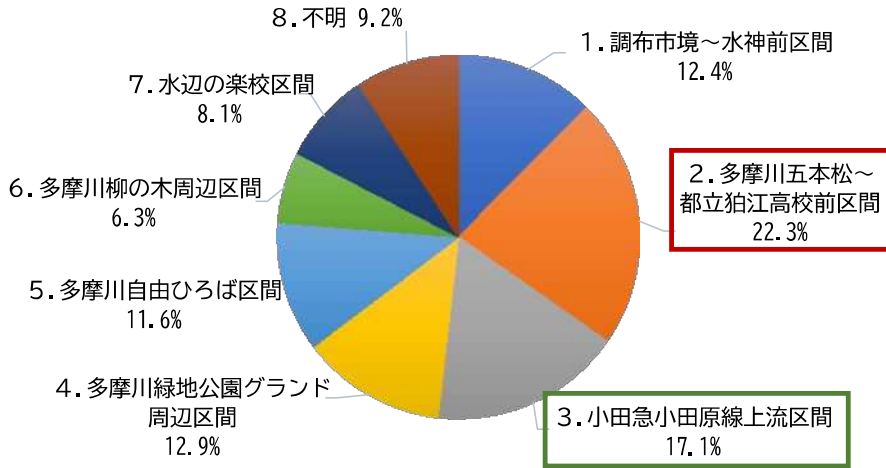
### 利用頻度 × 居住地

上段：件数  
下段：(%)

	合計	間1. 利用頻度							
		毎日	週に3~5 回程度	週に1~2 回程度	月に1~2 回程度	半年に1回 程度	1年に1回 程度	利用しない	
間19. 居住地	多摩川に隣接ま たは近い地域	196 100.0	13 6.6	26 13.3	41 20.9	55 28.1	30 15.3	6 3.1	25 12.8
	多摩川からやや 離れている地域	306 100.0	1 0.3	7 2.3	58 19.0	66 21.6	64 20.9	25 8.2	85 27.8
	多摩川から離れ ている地域	107 100.0	0 0.0	2 1.9	7 6.5	17 15.9	24 22.4	16 15.0	41 38.3
合計	609 100.0	14 2.3	35 5.7	106 17.4	138 22.7	118 19.4	47 7.7	151 24.8	

- 多摩川に隣接または近い地域 : 西和泉、元和泉、東和泉、猪方、駒井町
- 多摩川からやや離れている地域 : 和泉本町、中和泉、岩戸南、岩戸北
- 多摩川から離れている地域 : 東野川、西野川

### 利用場所



### 利用場所 × 年齢

上段：件数  
下段：(%)

	合計	間4-1.C. 利用場所							
		調布市境～ 水神前区間	多摩川五本 松～都立狛 江高校前区 間	小田急小田 原線上流区 間	多摩川緑地 公園グランド 周辺区間	多摩川自由 ひろば区間	多摩川柳の 木周辺区間	水辺の楽校 区間	
間17. 年齢	10歳代	7 100.0	3 42.9	4 57.1	5 71.4	4 57.1	5 71.4	2 28.6	0 0.0
	20歳代	44 100.0	6 13.6	19 43.2	22 50.0	13 29.5	9 20.5	5 11.4	5 11.4
	30歳代	110 100.0	18 16.4	44 40.0	44 40.0	31 28.2	26 23.6	8 7.3	20 18.2
	40歳代	167 100.0	65 38.9	84 50.3	71 42.5	57 34.1	50 29.9	28 16.8	36 21.6
	50歳代	136 100.0	44 32.4	78 57.4	57 41.9	52 38.2	50 36.8	32 23.5	41 30.1
	60歳代	95 100.0	37 38.9	59 62.1	42 44.2	26 27.4	23 24.2	17 17.9	21 22.1
	70歳代	79 100.0	28 35.4	51 64.6	34 43.0	27 34.2	24 30.4	12 15.2	12 15.2
	80歳代	38 100.0	7 18.4	30 78.9	13 34.2	10 26.3	10 26.3	4 10.5	3 7.9



利用目的 × 利用場所 ※利用場所ごとの利用目的の数を表したもので、n=利用目的別の母数は下表のとおり



利用目的	n
ジョギング	82
散歩	327
犬の散歩	30
イベント参加	71
釣り・魚とり・水遊び	24
スポーツ(野球、サッカー等)	30
自然観察・写真撮影	110
ポート(カヌー、SUP等)	5
通遊地点(運動、遊学の通り道)	34
サイクリング	97
その他	34

- 1. 調布市境～水神前区間
  - 区内の上位3位を、「散歩」「サイクリング」「ジョギング」が占めているように、区間1は「景」としての利用よりも、「緑」としての利用が好まれているようである。
- 2. 多摩川五本松～都立柏江高校前区間
  - 「散歩」が区間2の中でも、また他区間と比べても、最も多い。
  - また、「サイクリング」「ジョギング」「自然観察・写真撮影」は、全区間の中で最も多い。
  - 全利用数は区間中、最も多い。
- 3. 小田急小田原線上流区間
  - 「散歩」が区間2と同様、他の利用を大きく引き離して多い。
  - 上位4位は、区間2の利用数を下回るが、同様の傾向である。
  - 区間2と比べ、「イベント参加」「通遊地点」などが若干多い。
- 4. 多摩川緑地公園グラウンド周辺区間
  - 「散歩」「サイクリング」が上位なのは他区間と同様である。
  - 「イベント参加」「スポーツ」が全区間の中で最も多い。
- 5. 多摩川自由ひろば区間
  - 「散歩」「サイクリング」が上位なのは他区間と同様である。
  - 区間4と同様に、「イベント参加」が多い。
- 6. 多摩川橋の木周辺区間
  - 「散歩」「サイクリング」が上位なのは他区間と同様であるが、その差は、あまり大きくない。
  - 全利用数が、他区間と比べて少ない。
- 7. 水辺の楽校区間
  - 区間6と同様、「散歩」「サイクリング」が上位であるが、その差は、あまり大きくない。
  - 全利用数が他区間と比べて少ない中、「自然観察・写真撮影」が多い。



## 利用目的のうち、「散歩」の区間別利用者数

※「散歩」の区間をパターン化し、その数を実数で示したもの

- 『利用目的』のうち、「散歩」の区間別利用者数をみると、区間2のみの利用が多い。
- また、パターン8、パターン9、パターン14のように、区間2に、区間1と区間3を合わせた範囲の中での利用も目立ち、「散歩」の起終点がこれらの区間内にある周遊コースの存在が伺われる。
- こうした結果は、「散歩」を促す仕掛けの有無によって、区間4～7への延伸も期待できる。

パターン	区間							「散歩」の利用者数（人）
	1 調布市境～水神前区間	2 多摩川五本松～都立粕江高校前区間	3 小田急小田原線上流区間	4 多摩川緑地公園グランド周辺区間	5 多摩川自由ひろば区間	6 多摩川柳の木周辺区間	7 水辺の楽校区間	
1	1	2	3	4	5	6	7	13
2	1	2	3	4	5	6	7	56
3	1	2	3	4	5	6	7	18
4	1	2	3	4	5	6	7	7
5	1	2	3	4	5	6	7	6
6	1	2	3	4	5	6	7	1
7	1	2	3	4	5	6	7	7
8	1	2	3	4	5	6	7	26
9	1	2	3	4	5	6	7	15
10	1	2	3	4	5	6	7	3
11	1	2	3	4	5	6	7	2
12	1	2	3	4	5	6	7	2
13	1	2	3	4	5	6	7	9
14	1	2	3	4	5	6	7	23
15	1	2	3	4	5	6	7	9
16	1	2	3	4	5	6	7	8
17	1	2	3	4	5	6	7	2
18	1	2	3	4	5	6	7	4
19	1	2	3	4	5	6	7	6
20	1	2	3	4	5	6	7	1
21	1	2	3	4	5	6	7	3
22	1	2	3	4	5	6	7	5
23	1	2	3	4	5	6	7	5
24	1	2	3	4	5	6	7	3
25	1	2	3	4	5	6	7	1
26	1	2	3	4	5	6	7	2
27	1	2	3	4	5	6	7	1
28	1	2	3	4	5	6	7	2
その他（連続して区間を選択しなかった方）								27

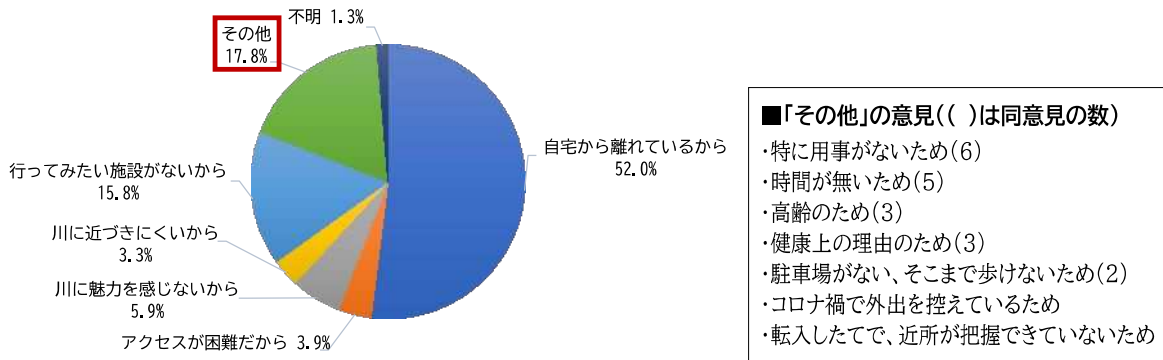


上表の「区間」1～7の範囲

### ③多摩川を利用しない理由について

- 『利用しない理由』は、「自宅から離れているから」が最も高い割合を示している。なお、次いで高い割合は、「その他」であり、その内容は以下に示すとおり、「用事がない」「時間がない」「高齢」「健康上の理由」となっている。
- 「自宅から離れているから」は高齢者層で割合が高く、「行ってみたい施設がないから」は比較的若年者層で割合が高い。
- 居住地別の結果は顕著に現れており、「自宅から離れているから」は多摩川から離れている居住地ほど割合が高い。一方、多摩川に隣接または近い居住地では「行ってみたい施設がないから」の割合が高くなる。

### 利用しない理由



### 利用しない理由(上位3位) × 年齢

※「利用しない理由」の上位3位を抜粋したもの

問17. 年齢	年齢	合計	問7. 利用しない理由		
			自宅から離れているから	川に魅力を感じないから	行ってみたい施設がないから
問17. 年齢	10歳代	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	12	4	1	5
		100.0	33.3	8.3	41.7
	30歳代	16	9	3	3
		100.0	56.3	18.8	18.8
	40歳代	27	12	2	5
		100.0	44.4	7.4	18.5
	50歳代	19	6	3	3
	100.0	31.6	15.8	15.8	
60歳代	29	16	0	7	
	100.0	55.2	0.0	24.1	
70歳代	20	13	0	1	
	100.0	65.0	0.0	5.0	
80歳代	26	18	0	0	
	100.0	69.2	0.0	0.0	

上段：件数  
下段：(%)

### 利用しない理由(上位3位) × 居住地

※「利用しない理由」の上位3位を抜粋したもの

問19. 居住地	居住地	合計	問7. 利用しない理由		
			自宅から離れているから	川に魅力を感じないから	行ってみたい施設がないから
問19. 居住地	西和泉	4	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	25.0
	元和泉	3	0	0	3
		100.0	0.0	0.0	100.0
	東和泉	8	1	0	3
		100.0	12.5	0.0	37.5
	猪方	5	0	2	2
		100.0	0.0	40.0	40.0
	駒井町	5	0	1	1
		100.0	0.0	20.0	20.0
	和泉本町	30	17	1	2
		100.0	56.7	3.3	6.7
	中和泉	17	4	2	6
	100.0	23.5	11.8	35.3	
岩戸南	19	11	2	3	
	100.0	57.9	10.5	15.8	
岩戸北	17	12	0	3	
	100.0	70.6	0.0	17.6	
東野川	14	12	0	0	
	100.0	85.7	0.0	0.0	
西野川	27	21	1	0	
	100.0	77.8	3.7	0.0	

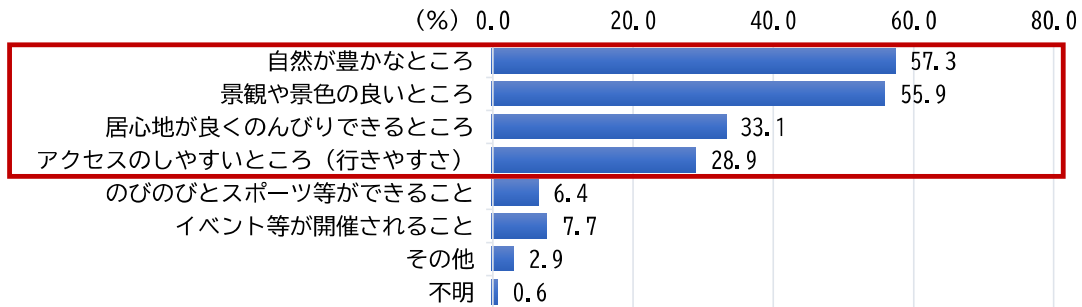
上段：件数  
下段：(%)

※多摩川に(から)・  
■ : 隣接または近い  
■ : やや離れている  
■ : 離れている

### ④多摩川のポテンシャルについて

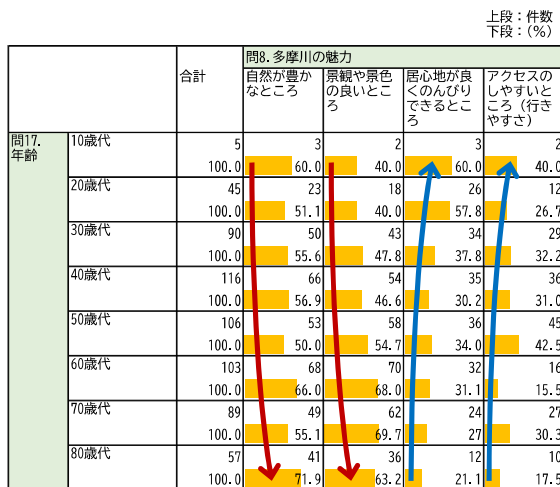
- 『多摩川の魅力』は、「自然が豊かなところ」が最も高い割合を示し、「景観や景色が良いところ」が僅差で続いている。また、「居心地が良いのんびりできるところ」「アクセスしやすいところ(行きやすさ)」と続いている。
- 「自然が豊かなところ」「景観や景色が良いところ」は、年齢が高くなるにつれて割合が高くなり、一方、「居心地が良いのんびりできるところ」は、年齢が低いほど割合が高くなっている。
- 「自然が豊かなところ」「景観や景色が良いところ」は、河川から離れた居住地ほど割合が高くなり、一方、「居心地が良いのんびりできるところ」は、近い居住地ほど割合が高くなっている。
- 『多摩川の魅力』に対して「アクセスのしやすいところ(行きやすさ)」が高い割合を示していることは、現在の利用目的の中で最も高い割合の「散歩」にみられる、のんびり利用する空間としてだけでなく、各種イベントの開催など市内外からの利用に対しても大きなポテンシャル(可能性)を持っていることが伺われる。
- なお、市民の「アクセスのしやすいところ(行きやすさ)」に関する結果は、「居住地」にも影響している。

### 多摩川の魅力



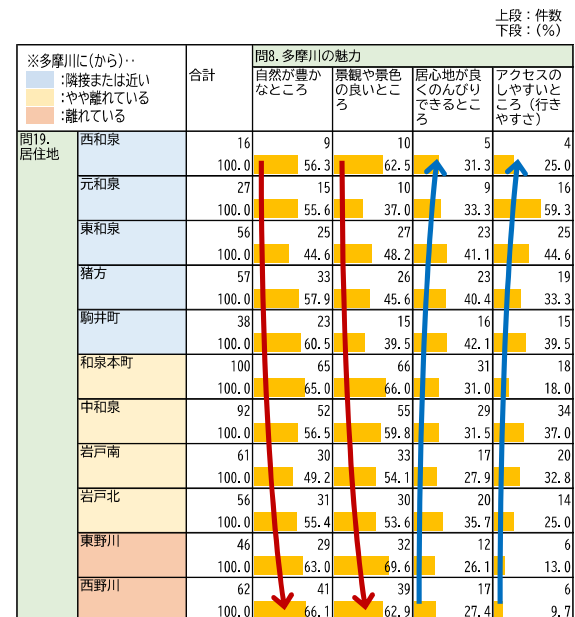
### 多摩川の魅力(上位4位) × 年齢

※「多摩川の魅力」の上位4位を抜粋したものの



### 多摩川の魅力(上位4位) × 居住地

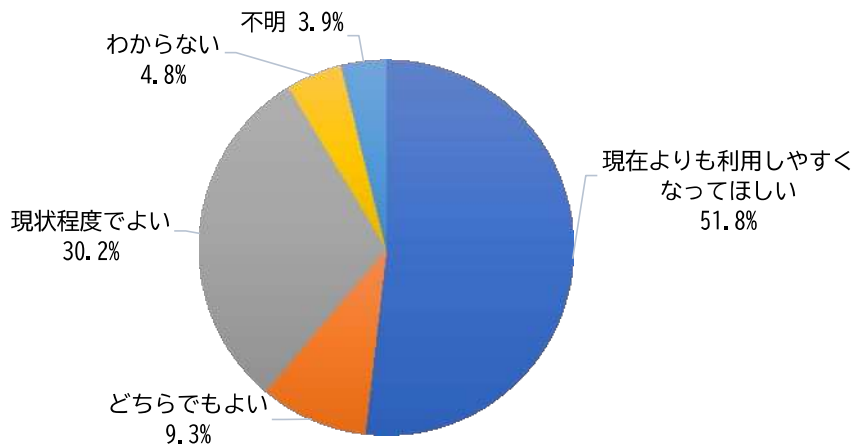
※「多摩川の魅力」上位4位を抜粋したものの



⑤多摩川の利活用に対して

- 『利用しやすい川になってほしいか』については、「現在よりも利用しやすくなってほしい」という意見が最も高い割合を示すが、「現状程度でよい」とする意見も比較的高い割合を示している。
- 「10～60 歳代」は、「現在よりも利用しやすくなってほしい」が最も高い割合を示すが、「70～80 歳代」は、「現状程度でよい」が最も高い割合となる。

利用しやすい川になってほしいか



利用しやすい川になってほしいか × 年齢

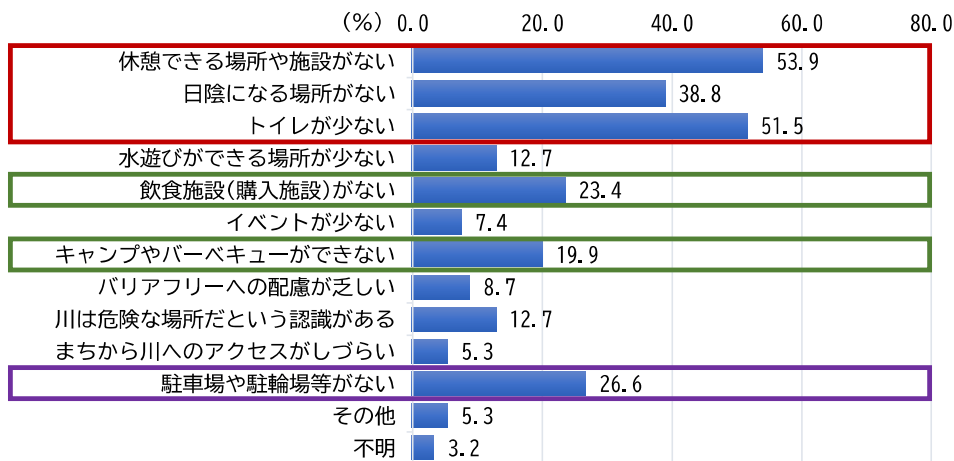
上段：件数  
下段：(%)

問17. 年齢	年齢	合計	問9. 利用しやすい川になってほしいか			
			現在よりも利用しやすくなってほしい	どちらでもよい	現状程度でよい	わからない
問17. 年齢	10歳代	5	3	1	1	0
		100.0	60.0	20.0	20.0	0.0
	20歳代	45	23	9	10	3
		100.0	51.1	20.0	22.2	6.7
	30歳代	88	63	10	14	1
		100.0	71.6	11.4	15.9	1.1
	40歳代	112	68	13	25	6
		100.0	60.7	11.6	22.3	5.4
50歳代	104	58	12	31	3	
	100.0	55.8	11.5	29.8	2.9	
60歳代	99	47	9	41	2	
	100.0	47.5	9.1	41.4	2	
70歳代	82	33	1	39	9	
	100.0	40.2	1.2	47.6	11.0	
80歳代	57	23	3	25	6	
	100.0	40.4	5.3	43.9	10.5	

### ⑥多摩川で利用を進める際の問題点について

- 『利用を進める際の問題点』は、「休憩できる場所や施設がない」が最も高い割合を示し、次いで「トイレがない」「日陰になる場所がない」などと続いている。
- これら上位3位までに見られる、多摩川でのんびり過ごす時に求められる課題は、いずれの年代においても高い割合を示しているが、特に高齢者層で割合が高くなっている。
- 一方、「飲食施設(購入施設)が少ない」「キャンプやバーベキューができない」の、活動的な要素が多少含まれている課題は、若年者層で割合が高くなっている。
- さらに、「駐車場や駐輪場等がない」は、中間年齢層(40歳代～60歳代)で割合が高くなっている。
- 高齢者層は、自然や景観・景色に魅力を感じ、それらを楽しむための休憩所や日陰になる場所を求めている。一方、若年者層は、居心地が良くのんびりすることに魅力を感じ、それらを一層楽しむために、飲食施設やキャンプ・バーベキューができる場所を求めていると言える。

### 利用を進める際の問題点



### 利用を進める際の問題点(上位6位) × 年齢

※「利用を進める際の問題点」の上位6位を抜粋したもの

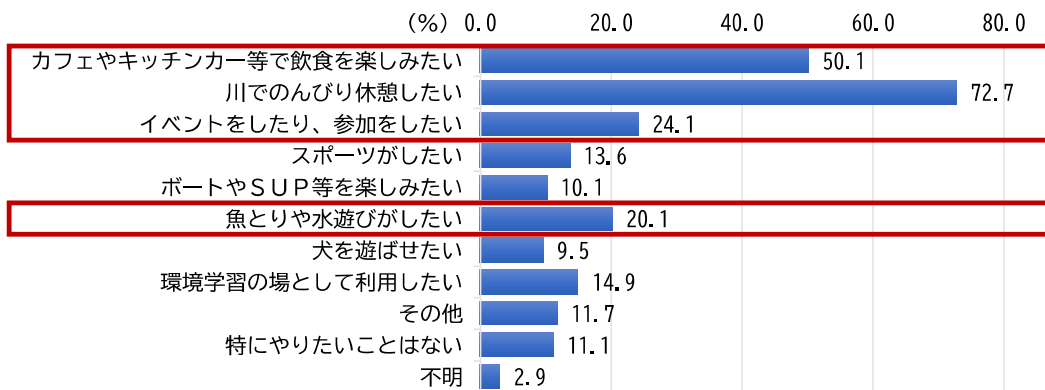
上段：件数  
下段：(%)

問17. 年齢	合計	問10. 利活用を進める際の問題点					
		休憩できる場所や施設がない	日陰になる場所がない	トイレが少ない	飲食施設(購入施設)がない	キャンプやバーベキューができない	駐車場や駐輪場等がない
10歳代	5	1	3	1	2	2	0
	100.0	20.0	60.0	20.0	40.0	40.0	0.0
20歳代	44	23	12	17	12	15	8
	100.0	52.3	27.3	38.6	27.3	34.1	18.2
30歳代	89	48	33	37	32	28	20
	100.0	53.9	37.1	41.6	36.0	31.5	22.5
40歳代	115	47	37	68	36	30	38
	100.0	40.9	32.2	59.1	31.3	26.1	33.0
50歳代	104	54	44	59	18	28	35
	100.0	51.9	42.3	56.7	17.3	26.9	33.7
60歳代	101	65	41	53	20	14	31
	100.0	64.4	40.6	52.5	19.8	13.9	30.7
70歳代	81	52	44	42	16	5	17
	100.0	64.2	54.3	51.9	19.8	6.2	21.0
80歳代	56	41	24	38	8	1	14
	100.0	73.2	42.9	67.9	14.3	1.8	25.0

### ⑦多摩川でしたい具体的な活動について

- 『多摩川でしたいこと』は、「川でのんびり休憩したい」が最も高い割合を示し、次いで「カフェやキッチンカー等で飲食を楽しみたい」「イベントをしたり、参加をしたい」などが続いているが、下位は大差ない。「犬を遊ばせたい」は、一番低い結果となった。
- 「川でのんびり休憩したい」は、全年代で高い割合を示しているが、「20 歳代」と「30 歳代」ではその割合が他年代と比べて若干低い。
- それとは逆に、「20 歳代」と「30 歳代」は、「イベントをしたり、参加をしたい」が他と比べて高い。
- なお、『開催を希望するイベント』をみると、「マルシェ、フリーマーケット」が最も高い割合を示し、次いで「自然観察会」「音楽イベント」「アウトドアイベント」などと続いている。
- 「カフェやキッチンカー等で飲食を楽しみたい」は、若年者層になるにつれて高くなっている。
- 「魚とりや水遊びがしたい」が、「30 歳代～40 歳代」で高い割合なのは、自身が楽しみたいという意見のほかに、子供と一緒に楽しみたいという意見が含まれていることが推察される。

### 多摩川でしたいこと

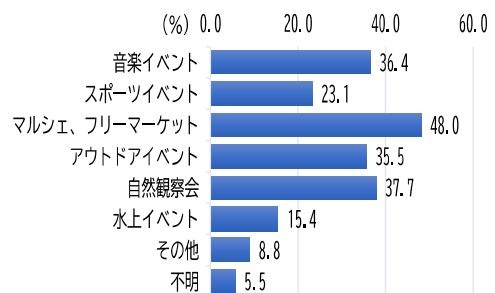


### 多摩川でしたいこと(上位4位) × 年齢

※「多摩川でしたいこと」の上位4位を抜粋したもの

問17. 年齢	合計	問11. 多摩川でしたいこと			
		カフェやキッチンカー等で飲食を楽しみたい	川でのんびり休憩したい	イベントをしたり、参加をしたい	魚とりや水遊びがしたい
10歳代	5	5	4	0	1
	100.0	100.0	80.0	0.0	20.0
20歳代	45	27	30	15	5
	100.0	60.0	66.7	33.3	11.1
30歳代	89	60	52	34	22
	100.0	67.4	58.4	38.2	24.7
40歳代	113	72	81	29	34
	100.0	63.7	71.7	25.7	30.1
50歳代	105	51	90	33	21
	100.0	48.6	85.7	31.4	20.0
60歳代	99	40	82	20	16
	100.0	40.4	82.8	20.2	16.2
70歳代	84	33	65	9	20
	100.0	39.3	77.4	10.7	23.8
80歳代	57	19	42	8	5
	100.0	33.3	73.7	14.0	8.8

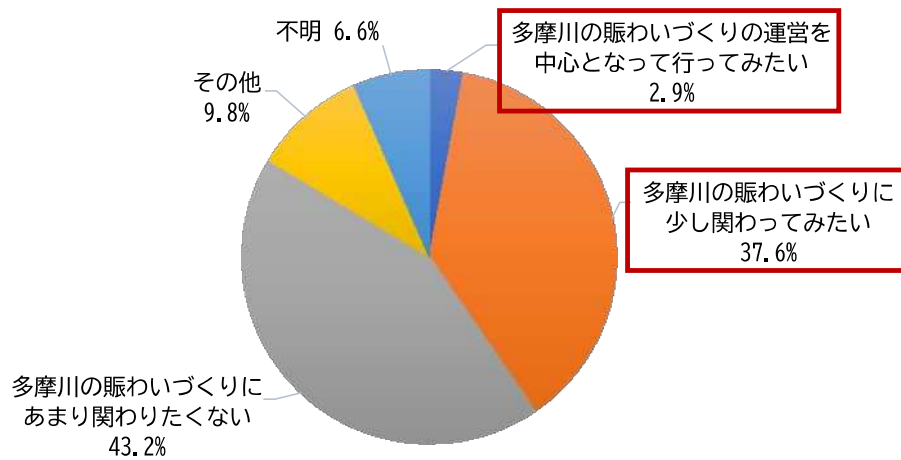
### 開催を希望するイベント



### ⑧賑わいづくりへの参加意識について

- 『賑わいづくりに参加したいか』については、「多摩川の賑わいづくりにあまり関わりたくない」が最も高い割合であるが、次いで「多摩川の賑わいづくりに少し関わってみたい」が続いている。
- また、「多摩川の賑わいづくりの運営を中心となって行ってみたい」という積極的な意見に、上記の「多摩川の賑わいづくりに少し関わってみたい」という意見を加えると、おおよそ4割の方が何らかのかたちで多摩川の賑わいづくりに関わってみたいと思っている。
- 「多摩川の賑わいづくりに少し関わってみたい」は、若年者層になるにつれて割合が高くなり、「多摩川の賑わいづくりにあまり関わりたくない」は、高齢者層になるにつれて割合が高くなる。

### 賑わいづくりに参加したいか



### 賑わいづくりに参加したいか × 年齢

問17. 年齢	合計	問14. 賑わいづくりへの参加意識			
		多摩川の賑わいづくりの運営を中心となって行ってみたい	多摩川の賑わいづくりに少し関わってみたい	多摩川の賑わいづくりにあまり関わりたくない	その他
10歳代	5	0	3	2	0
	100.0	0.0	60.0	40.0	0.0
20歳代	44	1	22	18	3
	100.0	2.3	50.0	40.9	6.8
30歳代	90	5	48	31	6
	100.0	5.6	53.3	34.4	6.7
40歳代	112	5	48	49	10
	100.0	4.5	42.9	43.8	8.9
50歳代	102	4	42	48	8
	100.0	3.9	41.2	47.1	7.8
60歳代	99	2	33	51	13
	100.0	2.0	33.3	51.5	13.1
70歳代	74	1	18	42	13
	100.0	1.4	24.3	56.8	17.6
80歳代	48	0	16	26	6
	100.0	0.0	33.3	54.2	12.5

上段：件数  
下段：(%)